

委員会報告

田原 久一 OA化担当

事務局のコンピュータが古くなり、島会長から15万位のパソコンをご寄付して頂きました。皆様にご報告と御礼を申し上げます。

ロータリー情報・規定委員会

田原 久一 委員長

先延ばしになっていたロータリー定款・細則が出来ました。来週の理事役員会でご審議して頂き、12月6日の総会の10日前に配布の必要から、再来週には皆様にお配り出来ると思います。

親睦委員会

櫻畑 友洋 委員長

例年恒例のクリスマス家族会が、12月15日にダイワロイネットホテル4Fにて開催させて頂きます。今日皆様にご案内をお配り致しておりますが、今年も楽しい催しもの、お土産をご用意しています。高校生、中学生、小学生、幼稚園児と細かい記載になっていますが、奮ってのご参加宜しくお願い致します。

和歌山駅前の花壇の植え替え

社会奉仕・環境資源委員会 吉田 篤生 委員長

11月11日、朝10時より和歌山駅前花壇の植え替えに行ってきました。

小雨の降る中、市長を交え市内9ロータリークラブで作業。我々にとっては、あいにくのお天気でしたが、花を植えるには最高のコンディション。

きっとすくすく育ち、きれいな花壇になってくれることでしょう。(出席者 山本幹事&吉田委員長)



ニコニコ箱

ありがとうございました

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 村田 昌之さん 上中会員本日の卓話楽しみにしています。 | 櫻畑 友洋さん 上中さん、卓話楽しみです！ |
| 黒田 純一さん 妻にお花有難うございました。 | 櫻畑 友洋さん クリスマス例会多くの皆様のご参加お待ちしております。 |
| 谷口 文利さん 上中さん卓話楽しみです。 | 上中 崇司さん 本日卓話させていただきます。よろしくお願ひします。 |
| 笹島 良雄さん ①I.D.M.4班、出席10名真摯な討議と深い親睦大変有意義でした。感謝です。 | 島 公造さん 上中さん大変ご苦勞様です。卓話楽しみにしています。 |
| 岸裏 廣澄さん ②上中会員殿本日卓話感謝致します。 | 山本 進三さん 上中さん、卓話よろしくお願ひします。楽しみにしています。 |
| 岸裏 廣澄さん 上中さん卓話よろしくお願ひします。 | 乾 敦雄さん 上中さん卓話よろしくお願ひします。 |
| 岸裏 廣澄さん 会員皆様の絶大なる応援を頂き巨人が日本一になりました。ありがとうございました。 | 阪神タイガース応援団一同 |
| 亀田 直紀さん 上中君、卓話ガンバレ！ | |
| 瀧川 嘉彦さん 上中さん卓話楽しみです。 | |

本日の累計 41,000円(計12名 15件)(お誕生日お祝い 223,000円 皆出席表彰 10,000円 その他 940,710円 累計額 1,173,710円)

本日の例会

11月15日(木)

- 卓話「エイズ撲滅キャンペーンについて」和歌山県感染症対策班主査 内田 史さん
- ピアノ演奏 シェルブールの雨傘(M.Legrand) 中井 利枝さん
- MORE(N.Olivero)

前回の例会

11月8日(木)

- 卓話「ひとつの情報がもたらす効果と顧客満足」当クラブ会員 上中 崇司さん
- ロータリーソング 「四つのテスト」 村田 昌之 次期会長

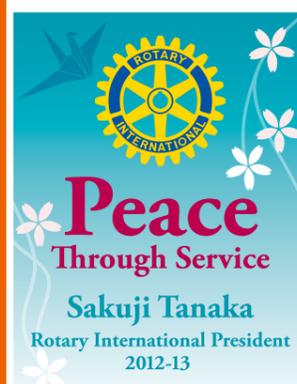
次回の例会

11月22日(木)

- 卓話「もっと和歌山に自信を！」和歌山市長 大橋 建一さん

メイキャップ情報 (敬称略)

- 11月12日(月) 木潮会 島 公造、山本 進三、谷口 文利
- 11月14日(水) 和歌山西R.C. 松田 洪毅



「確信と絆で作ろう、希望の未来へ!! 今日より一歩」

「奉仕を通じて平和を」

国際ロータリー 第2640地区 和歌山東ロータリークラブ URL http://www.werc.jp E-mail info@werc.jp

2012年11月15日(木) 週報 / VOL.54 No.19(通巻2565)

会長報告

島 公造 会長



皆さんこんにちは！早いもので11月になり山々の紅葉が綺麗になってきました。紅葉ではあまり桜の木を意識していなかったのですが、この木も結構紅葉が綺麗だと初めて気がつきました、モミジ、ハゼの木をいつも意識していましたが67歳で桜の紅葉が綺麗だと初めて気がついて何か得をしたような気分になりました。また4日前冬の味覚ズワイガニ解禁、マツバガニとも北陸では越前ガニと言います。北陸への出張も楽しみになってきました。世間は進まない政治、外交、経済と明るい話は少ないですが、その中で山や川の自然に気が付ける事がいかに大事か分かる今日この頃です。

後付ですが昨日の午後アメリカ大統領オバマ氏再選とニュースが流れました。日本のマスコミはアメリカがどうなるのかとか？日本に対してどうだろうか？本当にどこまで馬鹿な国になっているのか日本がアメリカに対してどうしっかり付き合うのか、あらゆる国に対してどうなのか、それをしっかり打ち出し実践していかないといけないのに、救いようのない政権、世界に対して性根を入れ替えねばとつくづく思いました。

幹事報告

山本 進三 幹事



- 各種表彰状、バナーが届いております。
- ①会員増強・拡大賞(国際ロータリー会長より表彰状) 会員増強・拡大賞(2640地区より表彰状)
 - ②100%「財団の友」クラブ賞 (2640地区ガバナーより表彰状)

- ③「毎年あなたも100\$を」クラブ賞 (2640地区ガバナーより表彰状)
- ④米山功労クラブ賞 (2640地区ガバナーより表彰状)
- ⑤国際ロータリーのロータリー財団よりバナー
- ⑥国際ロータリーのロータリー財団よりバナー 下記のお知らせ・案内が来ましたので回覧します。
- こぼと学園だより11月号 No.432
- JCニュース11月号
- 国際ロータリー年次大会 参加旅行のご案内



ロータリー財団より表彰

- 笹島 良雄さん マルチプル・ポール・ハリス・フェロー②
- 亀田 直紀さん マルチプル・ポール・ハリス・フェロー①
- 上中 崇司さん ポール・ハリス・フェロー

おめでとうございます!



出席報告

会員数 44名(内出席規定適用免除会員16名) 山東 勝彦 出席委員長

11月8日(本 日)	26名	74.3%	10月25日(メーキャップ後)	30名	88.2%	(欠席4名)
------------	-----	-------	-----------------	-----	-------	--------

皆さん、出席してください。

卓話 - 「ひとつの情報がもたらす効果と顧客満足」

丸十運送株式会社 社長 上中 崇司 会員



1. 起業

海南省の歴史の本をひも解いてみますと、皆さんもご存じの通り、弘法大師が高野山に開祖する際、海南近辺から高野山への登山道として切り開く際に、その登山道に棕櫚の木を植樹したと言われており、やがて、その棕櫚が成長し、それを原材料に、登山口付近の方達の手により、地場産業へと進化して当社も共に進化して参りました。

そしてここに、丸十運送の歴史の一ページが刻まれたと言えるのです。

原材料の棕櫚を登山口近辺に運び、出来上がった製品を消費地まで運ぶ。これが、今風に言えば、ビジネスシーンを見出したと言うことになるのでしょうか。

丸十の「運ぶ」一ページはここからスタートしましたが、地元、海南地域は、棕櫚を原材料とした製品を原点に、国内の和雑貨のシェアも大幅にアップして、束子(たわし)や箒(ほうき)から、家庭日曜雑貨にまで進化しつづけているのが現状です。



2. 会社概要

企業概要といたしまして、丸十運送株式会社を母体として、主力事業ごとに地元、海南省を中心に地場産業製品の輸配送をメインとした運送業を主とする『株式会社シンワエクスプレス』、食品輸送を主力事業とする『株式会社エムエルエス』、倉庫や物流センター内の構内業務を主とする『株式会社マルバリューサービズ』の3企業が実働部隊として稼働しております。

3. 会社方針と品質方針

常に向上心を持ち、最適な物流システムを提供する。

- 最適な物流サービスを提供する。
- 社会のニーズと信頼に応える。
- 環境保全を図ると共に地域社会との共生を図る。
- 業務の継続的な改善を図る。

「モノを運ぶ仕事」だけでは生き残れない。

これまで、運送業の役割として、生産している所から、消費・販売に携わる地点まで運ぶことを本業と捉えておりましたが、社会環境変化に複雑に対応しなくては、この競争社会では生き残れないのが現状なのです。

4. 顧客起業と密着した対応

海上輸送によるコンテナを積んだトレーラーを皆さんもよく目にすると思います。このコンテナの中の商品こそが、地元の主力商品である家庭用雑貨製品なのです。

そして、この製品を自社の庭先で降ろしてから、消費地や消費地間屋、小売店へと発送しているのが地元の製造業社様なのです。いくら大量消費の時代とはいえ、このような40フィートのコンテナが毎日入荷すれば、皆さんはおわかりになるとは思いますが当然、自社の倉庫は満杯。

次に入ってくるコンテナのために、スペースを確保するだけで精一杯、製品の仕分けや配送作業まで、とても自社の社員だけではこなさきれず、社長自ら入荷製品のかたづけに追われているのが、大半なのです。

このシーンを **ビジネスチャンスとして、丸十ソリューションとして商品化しました。**

いまや物流も、時代と共に進化していかなければならない時と叫ばれており、サードパーティーロジスティクス、略して3PLという顧客企業の物流業務を、物流業者や流通に携わる外部企業が物流業務を一括受託するビジネスが経済・流通業界で進行し、評価されるような時代へと進化させたのです。

したがいまして、顧客企業様は、商流に資源を注入していただき、商流と物流の業務を区分けすることで、販売や商品開発に力を注いでいただくことの提案こそが、3PLの位置づけなのです。

5. ITの導入と活用

3PL 物流業務一括受託業務の各業務項目の情報処理。

今、皆さんがお持ちの携帯電話、これをひとつとっても十数年前までは、ほんの一握りの限られた人達のステータスシンボルとして使用していたのが、今ではどうでしょう、携帯していない人を探すほうが難しい時代となっています。

このような情報化社会ですから、物流業務の至るところにもITを駆使したシステムソリューションを営業ツールとして販売合戦が繰り広げられています。

このような環境の中、わが社といたしまして、IT導入に対し、特に力を入れた点として、単に業務をIT化するだけでなく、全社員にIT導入のための方針を打ち出し、ひとつの情報から、「情報化できる部分は積極的に情報化する」を合言葉に、3PL事業のシステムづくりを、アナログ部分とデジタル化する部分とを見極め、自社でシステム開発した点が、今日ある丸十グループの強みとなっているのではないかと思います。

顧客(荷主様)の物流業務負荷を軽減し、協働関係を構築。

各量販店からの注文を量販店本部が取りまとめ、荷主様へ発注データをWEBで送信いたします。

送信された発注データを荷主様が受信され、そのデータを丸十グループの物流センターで取り込みます。これがひとつの情報です。

この情報をもとに、丸十グループの物流センターで行う作業に必要なデータに加工します。このデータ加工部分が、自社で開発したオリジナルシステムなのです。この部分は、それぞれのお客様要求に対応できるようカスタマイズしています。そして、一日の作業に必要な伝票や送り状などを生成し作業に取り掛かります。

ブルーの点線で囲った部分が丸十グループ物流センターでの一日の作業の流れを示したものになります。

6. 評価

2009年に経済産業省より、IT経営 実践認定企業として認定され、昨年2月にNPO法人IT百撰アドバイザークラブより、「関西IT百撰優秀企業賞」に選ばれ、顕彰されました。この他「安全性優良事業所」として「Gマーク」の認定、また「ISO9001」も取得しています。

7. 最先端ITセンター設立

最先端IT技術を取り入れたセンターをオープン。

昨年秋、集大成として、昨年11月に県内大手ドラッグスーパー様の専用物流センターの運営を受託し、24時間、365日休むことなく稼働しています。当社はこのセンターのように、常に注目され、一歩でも先行く、物流のリーディングカンパニーを目指し、日々、研鑽して参りますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

(編集責任 笹島)

